

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

薩摩川内市

2 構造改革特別区域の名称

薩摩川内市小中一貫教育特区

3 構造改革特別区域の範囲

薩摩川内市の全域

4 構造改革特別区域の特性

本市は、薩摩半島の北西部に位置し、平成16年10月12日の市町村合併により、南は県都鹿児島市といちき串木野市、北は阿久根市に隣接する本土区域と、上甑島、中甑島、下甑島で構成される甑島区域で構成されるようになった。また、平成16年3月から九州新幹線が部分開通し、県都鹿児島市までは12分程度でアクセスできるようになった。このような特性を踏まえ、本市では新幹線の通勤用定期代を一部補助するなどする「定住促進制度」を導入している。

市内には、市立小学校47校、市立中学校16校があり、「小・中連携の充実」「ふるさと教育の推進」等の市教育委員会の重点施策を具体化する取組を進めている。これは、市町村合併により広域化したことにより、それぞれの学校のよさを縦の連携（校種間連携）と横の連携（地域間連携）により共有し、特色ある学校づくりに生かしていこうとする趣旨である。

特に、本市において「小・中連携の充実」を進める背景としては、標準学力検査問題結果や県が実施した「基礎・基本」定着度調査結果等の諸検査結果で中学校入学後の学力の落ち込みが見られるという学習指導上の課題や、中学校入学以後の不登校生徒が増加するなどの生徒指導上の課題の解決が急務であることが挙げられる。これは、小・中学校間でこれまでお互いに情報交換したり、共同研修したりする場が極めて少なかったため、児童生徒の理解や指導方法に大きなギャップが生じたことなどが要因として考えられる。

具体的には、学習指導上の課題解決のために、各小・中学校では学力に関する諸検査結果を分析し、数値目標を掲げて各校の実態に即した具体策を講じている。また、小・中学校が相互に授業を参観し合うなどして、お互いの指導力の向上に努め、基礎学力の揺らぎなどの今日の教育課題に対

応する取組を進めている。

生徒指導上の課題解決のためには、各学校がお互いに情報交換を行いながら、積極的な生徒指導を進めるとともに、本市では適応指導教室を開設し、不登校児童生徒の積極的な受入を行い、学校復帰ができるよう支援している。

一方で、市内の平佐西小学校では平成13年度から文部科学省の研究開発学校の指定を受け、小学校における新設教科「英語科」を特設して、市内外の小学校に研究の取組の成果を発表している。平佐西小学校の研究推進に当たっても、これまでに進学先の中学校職員が運営指導委員として参加したり、小・中学校間で協同授業を展開したりして連携を図ってきた。また、地域の英語に堪能な人材をゲスト・ティーチャーに迎え、地域との連携を図ってきた。

このような基盤を踏まえ、市内の小・中学校では、校長が学校間、地域と連携を図りながら、強いリーダーシップを発揮し、特色ある学校経営に努めており、一定の成果を収めつつある。

今回の事業を進めようとする川内地域（旧川内市）の水引小学校と水引中学校は、本土区域で唯一の小学校1校、中学校1校で構成される中学校区で、小中一貫教育を推進する条件に非常に恵まれている。校区は市内中心部に隣接し、地域の教育に対する関心も高く、校区内の地域と連携を図った諸行事への小・中学生の参加も多い。一方で、中学校に入学後も、小学校の集団と変化がないことなどから、友人関係が固定化したり、十分なコミュニケーションを必要としなくてもお互いに分かり合えることから、表現力が不足したりする傾向にある。また、これらの理由から友人間のトラブルがあったり、中学校入学後、不登校傾向に陥ったりする生徒もいるといった課題がある。

甌島の里地域（旧里村）の里小学校と里中学校も、同様に小学校1校、中学校1校で学校間が1km程度しか離れていないことから、これまでも兼務制度を生かした学校間の連携や、地域行事や学校行事、PTA行事の合同開催などにより、積極的に小・中学校間の連携を進めてきた。一方で、島内に高校がないことから、身近に目標とする高校生を見かける機会が少ないことから自立心に乏しかったり、今までの取組では小中学校の指導方法の違いがあることなどから、中学校入学後の学力の伸びがおもわしくなかったりするといった課題がある。

祁答院地域（旧祁答院町）は、「パソコンの町」として情報教育について長年の研究実践がなされ、黒木小学校・大裏小学校・上手小学校・藺牟田小学校及び祁答院中学校は、お互いに情報交換し合い、共同研究する風土

が確立している。また、情報機器を操作する能力もある程度、児童生徒に身に付いている。一方で、これまでのカリキュラムを組み替えて、各教科等と関連を図った発信的な立場での指導が課題として残されている。

このように、3つの中学校区を含め、各学校ではこれまでの小・中連携した取組だけでは、教育課程上の連結がうまく見いだせないなどの理由で、各学校が抱える上述の課題を焦点化して取り組むまでには至っていない。

今回、申請する小中一貫教育特区は、3つの中学校区においてこれまでの取組を踏まえるとともに、教育課程の枠組みを超えて実施するダイナミックな取組を進めるもので、具体的には各校の特性を生かした新設教科の特設や教育段階の工夫を行うことなどにより、基礎学力の充実に努めるとともに特色ある学校づくりを推進しようとするものである。

このことにより、関係小・中学校間で、教師や児童生徒の積極的な交流が図られるとともに、各地域の実態に即した新設教科への取組を通して、学校課題の解決に資することが期待できる。

また、今回申請する中学校区における成果を踏まえ、今後、他の中学校区の活性化もめざすものである。

5 構造改革特別区域計画の意義

連携型の小中一貫教育を行うことで、子どもにとって中学校入学時の不安が払拭され、円滑な接続を図ることができるとともに、子どもたち一人一人の個性の伸長を図ることができる。

また、義務教育9年間の教育課程を編成するうえで、児童生徒の発達段階に即した教育内容を位置付けることが求められる。そこで、様々な先進校での取組の成果を踏まえながら、教育段階の見直しを進めながら、時機にあった教科を特設することにした。

具体的には、併設型の小中一貫教育を円滑に進めるために、「4・3・2」制の教育段階を区切りによる教育課程を編成し、特に中期の3年間では、積極的な教師、児童生徒の交流を行う。その中で、文部科学省研究開発学校の平佐西小学校のこれまでの取組成果を生かした小学校での英語教育を充実し、ひいては中学校の英語教育を豊かにしたい。また、各学校が抱える先述の課題を解決するために、新設教科の創設により、小中一貫教育を進める教育課程の編成を具現化できると考える。このことにより、例えば、水引中学校区の「表現科」では、相手を十分に意識した表現力の向上が、里中学校区の「生き方科」では、将来に向けてたくましく自立しようとする態度や資質の育成が、祁答院中学校区の「情報コミュニケーション科」では、情報機器を手段としたコミュニケーション能力の育成

が期待できる。

さらに、地域のニーズに応じた教育活動を小・中学校合同で実施することで、異年齢集団による学び合いが成立する。こうした活動を通して、児童生徒一人一人がふるさと意識を涵養し、思いやりや敬愛の念などの不易の道徳心を身に付けることが期待できる。

特に、これまでに様々な取組を行っている3つの中学校区においては、学校間の連携はもとより、地域ぐるみの教育活動を展開することが可能であり、ひいては地域の活性化にもつながると考える。

こうした、3つの中学校区における取組は、本市の他の中学校区にも波及していくものであり、「中1ギャップ」により基礎学力の揺らぎや不登校などの生徒指導上の問題行動が表出する傾向にある本県においても先駆的な役割を担うものである。

6 構造改革特別区域計画の目標

(1) 薩摩川内市の目指す目標

小中一貫教育特区として本市が目指すのは、3つの中学校区における教育課程の編成に係る教育実践を進め、その検証を重ねたうえで、市内の他の中学校区さらには本県全域に提言していくことである。

併せて、研究開発学校の平佐西小学校における英語教育の先行的な取組を、今回申請する小学校においても試行し、その成果についてデータを累積する予定である。

また、これまでに、各地域（旧市町村）で育てられてきた豊かな自然や伝統文化を尊重しながら、新たな薩摩川内市としての一体感のある教育・文化・スポーツの振興を図る必要がある。

本市では「地域の特色を活かした教育・文化のまちづくり」を教育目標として掲げ、その推進に当たっては、「まちづくりの原点は人づくりである」との生涯学習の観点に立ち、学校・家庭・地域の協働による心豊かな人間性を育む「薩摩川内らしい教育」づくりに努めている。この具体化のためにも、小・中学校が連携を強化し、家庭や地域と協働して教育活動を展開していくことは意義あることである。

(2) 小中一貫校の目指す目標

小中学校の教師・児童生徒が交流を深め、小学生の中学校入学への不安を払拭する。

小中学校間の垣根を取り払い、相互の共同研修の機会を増やし、教師の指導力の向上を図る。

小学校における英語教育を充実し、ひいては中学校の英語教育を豊かに

する。

「学習指導要領」の基準によらない特色ある教育活動を展開し，各学校の教育課題の解決に努める。

新設する教科への取組等を通して，小中の教育課程の円滑な接続ができるように努める。

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

本市においても，基礎学力の確実な定着や，いじめ・不登校をはじめとする生徒指導上の諸問題の解決が義務教育に課せられた大きな課題である。

今回の申請により，このような課題解決のための効果が期待され，市内の学校全体を質的に向上させ，ひいては市内全域・県下全域の公立小・中学校全体の信頼回復につながることを期待される。

また，今回の取組は，学校・家庭・地域の協働を目指したものであることから，学校が地域の教育センターとしての中核となりながら，家庭・地域の教育力の向上が期待できる。

さらに，各学校が特色ある教育活動を展開することで，島嶼部（里中学校区）や都市周辺部（水引中学校区・祁答院中学校区）へのファミリー層の居住が期待され，地域の経済的・社会的な活性化が期待される。

8 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

9 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

(1) 文部科学省 研究開発学校制度

市内の平佐西小学校では，平成13年度から研究開発学校の指定を受け，小学校における「英語科」を創設し，研究・実践に取り組んでいる。

今回申請する6つの小学校においても，平佐西小学校の研究実践の成果を踏まえ，それぞれの取組に生かしていきたい。

(2) 「小・中連携の充実」

平成17年度から本市教育委員会が，学力向上や生徒指導の充実のために，管下の小・中学校に提唱している施策の一つである。

(3) 「英語力向上プラン」

本市の単独事業で、市内全中学生を対象に、英語検定への積極的な参加を促すため、本市が検定料の全額を負担し、中学校1年で5級、中学校2年で4級、中学校3年で3級の資格を取得することを目指して学習することで、英語力の向上を目指している。併せて、同事業では、市内小中学生の希望者を対象としたサマーキャンプを実施し、英会話をはじめとする実践的コミュニケーション能力の向上を目指している。

(4) 外部指導者の派遣

今回申請する小学校の英語教育の充実のために、鹿児島純心女子大学の学生や地域で英語が堪能な人材を指導者として、週2回程度、対象の小学校に派遣する。

(5) 特色ある学校づくりの推進

地域の特性や素材を生かして、学校新聞づくりや英語のビデオづくり等で最優秀賞を受賞する学校が増え、学校や地域と連携を図った教育活動が展開されている。

別紙 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業の内容、実施主体及び開始の日並びに特定事業ごとの規則の特例措置の内容

構造改革特別区域計画認定申請書（別紙）

1 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

2 当該規則の特例措置の適用を受けようとする者

薩摩川内市立水引小学校・水引中学校，里小学校・里中学校，黒木小学校・大裏小学校・上手小学校・蘭牟田小学校・祁答院中学校

3 当該規則の特例措置の適用の開始の日

平成18年4月1日

4 特定事業の内容

(1) 事業に関与する主体

薩摩川内市

(2) 事業が行われる区域

薩摩川内市立3中学校区内の6小学校及び3中学校

（薩摩川内市立水引小学校・水引中学校）

（薩摩川内市立里小学校・里中学校）

（薩摩川内市立黒木小学校・大裏小学校・上手小学校・蘭牟田小学校・祁答院中学校）

(3) 事業の実施期間

平成18年4月1日から

(4) 事業により実現される行為や整備される施設などの詳細

川内地域（水引小学校・水引中学校）と祁答院地域（黒木小学校・大裏小学校・上手小学校・蘭牟田小学校・祁答院中学校），甌島の里区域（里小学校・里中学校）において，小中9年間を見通した系統性・継続性のある連携型の小中一貫教育を行う。

水引小学校・水引中学校では，「地域に誇りを持ち，これからの時代を生き抜く確かな学力を身に付けた水引の子ども」の育成を図るため，「教育段階の見直しによる小・中の円滑な接続」「異学年交流による人間関係能力の育成」「表現力をはじめとする確かな学力の定着」を具体的な方策に掲げ，教育課程の編成を行う。

また、里小学校・里中学校では「自律心を持ち、主体的に生き方を創造する里の子ども」の育成を図るため、「教育段階の見直しによる小・中の円滑な接続」「国際化に対応した言語能力の育成」「生き方の基盤となる自律心の涵養」を具体的な方策に掲げ、教育課程の編成を行う。

さらに、黒木小学校・大叟小学校・上手小学校・蘭牟田小学校・祁答院中学校では「学び合い、伝え合う力を持ち、新しい時代を自ら切り開いていく祁答院の子ども」の育成を図るため、「教育段階の見直しによる小・中の円滑な接続」「国際化に対応した言語能力の育成」「情報教育を通じた総合的な表現力の育成」を具体的な方策に掲げ、教育課程の編成を行う。

5 当該規則の特例措置の内容

(1) 取組の期間

平成18年4月から実施し、平成20年度に事業全体を評価し、見直しを実施する。しかし、学校教育法の改正や新しい学習指導要領が示された時点においては、当該特例措置の内容やその後の継続等を含め、十分な検討を行う。

(2) 教育課程の基準によらない部分

水引小学校・水引中学校

ア 水引小学校において、国語の時間の一部（12～22時間）と、前期途中（小1～2）の生活科の時間の一部（20～22時間）、前期途中（小3）以降の「総合的な学習の時間」の一部（22～23時間）を削減のうえで融合化し、新しい教科として「表現科」を創設する。

イ 水引中学校において、国語と外国語の時間の一部（国語15時間、外国語15時間）と、「総合的な学習の時間」の一部（25～31時間）を削減のうえで融合化し、新しい教科として「表現科」を創設する。

里小学校・里中学校

ア 里小学校において、前期途中（小3）からの道徳、特別活動、「総合的な学習の時間」の一部の時間（道徳8～10時間、特別活動5時間、「総合的な学習の時間」75～80時間）を削減のうえで融合化し、新しい教科として「生き方科」と「英語科」を創設する。

イ 里中学校において、道徳、特別活動の一部の時間（道徳10時間、特別活動13～15時間）と「総合的な学習の時間」の授業時数の全ての時間を削減のうえで融合化し、新しい教科として「生き方科」を創設する。

黒木小学校・大叟小学校・上手小学校・蘭牟田小学校・祁答院中学校

- ア 黒木小学校・大裏小学校・上手小学校・藺牟田小学校において，中期（小５・６）の国語と前期途中（小３）からの「総合的な学習の時間」の一部（国語５時間，「総合的な学習の時間」３０～６５時間）を削減のうえ融合化し，新しい教科として「情報コミュニケーション科」を創設する。
- イ 祁答院中学校において，選択教科に充てる授業時数と，「総合的な学習の時間」の授業時数の全てを削減のうえ融合化し，新しい教科として「情報コミュニケーション科」を創設する。

(3) 計画初年度の教育課程の内容

水引小学校・水引中学校

ア 「四・三・二制」による教育段階の区切り

前期（小１～小４）では，学級担任によるきめ細かな指導を行い，中期（小５～中１）では，教科担任制を導入するとともに小・中兼務制による専門性を生かした指導を行う。また，後期（中２～中３）では，教科担任制を行うとともに，習熟度別指導により個性を伸長する指導を行う。

イ 学校行事等を通じた異学年交流の場の設定

これまでに，小学校・中学校で別々に実施してきた学校行事等を共同で開催し，異学年交流の場を位置づける。このことにより，前期では，上級学年への憧れや将来の自分像をイメージすることが，中期では，異学年交流による自尊感情の高揚が，後期では地域のリーダーとしての自覚の高まりが期待される。

ウ 豊かな表現力の定着を図る「表現科」の新設

(ア) 「表現科」創設の趣旨

国際化，情報化が進展する中，これからの子供たちには国語や英語の時間をはじめとして，コミュニケーション能力の育成を目指した指導を展開してきた。また，様々な情報手段を活用して主体的に自分の考えや思いを伝えたり，どのような考えや思いを持っているかを理解したり，お互いの考えや思いを積極的に伝え合おうとする態度や能力の育成に努めてきた。

具体的には，水引小学校においては，国語科や生活科，「総合的な学習の時間」を中心に，話す・聞く・読む・書くなどの表現力の育成に努め，「総合的な学習の時間」における英語活動については小学校３年生から各学年で年間２０時間を充てて英会話に慣れ親しみ，簡単な英会話を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育

成に努めてきたところである。

また、水引中学校においては、国語科と英語科を中心に適切に表現したり、理解したりする能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、実践的コミュニケーション能力の育成に努めてきた。その際、弁論や話し合い活動等の表現の場や ALT とのコミュニケーションを図る場の充実にも取り組んできた。

しかしながら、現状を検証すると人間関係がうまく築けずに不登校に陥る児童生徒があったり、子供たち同士で些細なことからトラブルに発展したりするケースがあった。また、せっかく小学校で英語活動に取り組んでいても、中学校でその成果をうまく生かせずに十分なコミュニケーション能力が身に付いたとはいえない。これには、例えば、現行の小学校の「総合的な学習の時間」における「英語活動」では、相手を意識した発表、声量、表情等を駆使して会話しようとしているが、これが国語科の発表になると、相手意識が希薄になる傾向があった。そこで、英語活動と国語科の指導内容の一部を融合し、小中で一貫して取り組むことにより、相手意識を高め表現しようとする力を育む必要がある。

このような理由から、小中学校 9 年間で系統的に表現力を高める教科として「表現科」を創設することにした。その際、これまでの各教科や「総合的な学習の時間」の中で関連が深い題材を融合化し、新設する教科の中であらたに単元構成し直して取り扱うことにする。

「表現科」においては、各教科等で身に付けた言語材料や資質・能力等を基盤とし、主に人間関係調整能力の育成を図っていく。そのためには、相手意識や目的意識を明確にした学習プログラムを設定していく必要がある。

具体的には、体験を伴った教育活動を展開しながら、表現することの喜びや、表現することの難しさを実感させ、コミュニケーション・スキル（技能）やコミュニケーション・ストラテジー（方略）を培う指導を展開する。

「表現科」で取り扱うコミュニケーション・スキル（技能）やコミュニケーション・ストラテジー（方略）は次のようなものである。

コミュニケーション・スキル（技能）

- ・ 適切な声量や間合いで話すことができる。
- ・ 適切な文字の大きさや字体を工夫して書くことができる。
- ・ 話しのポイントを整理して聞き取ることができる。
- ・ 筋道を立てて話すことができる。

- ・相手の意図を理解して聞くことができる。
- ・順序立てて書いたり話したりすることができる。
- ・目的や相手に応じた表現ができる。

コミュニケーション・ストラテジー（方略）

- ・相手が伝えていることがうまく理解できないときに、聞き返す。
- ・どのように伝えればよいか分からないときに、相手の協力を得て伝える。
- ・うまく伝えられないときに、動作や身振りを使って伝える。
- ・うまく伝えられないときに、他の平易な言葉に言い換えて伝える。
- ・聞き手の立場に立ったときに、適切な相づちを打つ。
- ・使いたい語句や表現を見つけるために、辞書を活用する。
- ・英語で伝わらない場合には、コード・スイッチして、日本語を交えながら伝える。

そこで、表現力の育成に当たっては、ディベートやパネル・ディスカッションなどの様々な形態を活用しながら、効果的な指導がなされるよう配慮していく。

(イ) 教科目標

表現することの喜びを知り、自分の考えや思いを整理して、相手、目的や場面に応じた適切な表現ができるようにする。

(ウ) 指導目標

- ・前期前半（１・２年）…「表現の基礎を身に付け、楽しんで表現することができるようにする。」
- ・前期後半（３・４年）…「表現の基礎を生かし、相手や目的に応じて適切に表現することができるようにする」
- ・中期（５～７年）…「自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に表現することができるようにする。」
- ・後期（８・９年）…「自分のものの見方や考え方を深め、説得力のある表現の仕方に注意して、積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。」

(エ) 教科書

関連する教科の既存の教科書を用いながら指導し、発展的な内容については、自作の発展教材を用いる。

(オ) 指導体制

小学校においては学級担任が、中学校においては関連する教科担

任が指導することを基本にし，必要な時間においては，小中学校の教員が TT 指導したり，中学校の教員が TT 指導したりして指導効果を上げる。

(カ) 指導内容

単 元 名	内 容	学年	時数
たんけんしよう	学校で働いている人々や上級生に質問したり，気付いたことを伝えたりする活動を通して，進んで人と関わったり表現しようとしたりする。	1	10
ともだちをさがそう	身近な生き物とふれ合い，気付いたことや感じたことを大事なことを落とさないように書いたり，分かりやすく話したりする。	1	6
おもい出してかこう	入学してから1年間の出来事の中で，思い出に残ったことを話し合ったり発表したりする活動を通して，1年間の成長を実感する。	1	23
町のニュース	インタビューの仕方を学び，町の人々にインタビューするとともに，発見したことを分かりやすく相手に伝える。	2	10
おおきくそだて	春から育ててきた野菜を収穫し，調理して味わうとともに，育てるときの苦労や収穫の喜びを書いたり発表したりする。	2	12
おおきくなったね	自分の成長記録をつくり，できるようになったことの中から自慢したことを発表するとともに，自分を支えてくれた人への感謝の気持ちを伝える。	2	20
発見したことを伝えよう	校区を探検して発見したことを聞く人を意識し内容を整理して発表する。	3	13
思いを伝えよう	地元の特産品について調べ，パソコン，劇，ビデオなどで発表したり，PRするCMづくりをしたりする。	3	12
外国の人と思いを伝え合おう(1)	身近な外国の文化に触れ，あいさつや簡単な日常会話を知り，外国の人と遊んだり会話をしたりする。	3	15
心を伝え合おう	障害がある人と触れ合い，障害がある人の生活上の苦労や思いについてインタビュー	4	10

	し整理して書く。		
自分たちにできること	障害がある人と触れ合った経験を生かして、全ての人が幸せに生きられる社会をつくるには自分たちはどうしたらよいか考え、自分の考えが伝わるように発表する。	4	10
外国の人と思いを伝え合おう(2)	身近な外国の文化に触れ、あいさつや簡単な日常会話を知り、外国の人と会話をする。	4	15
思いをことばに	米作りの喜びや苦労についてインタビューしたり、米作りの仕方について教えてもらったりして、気付いたことや思ったことを整理して発表する。	5	9
工夫して伝えよう	食について自分なりのテーマを設定し、調べたことを表現の方法・手段を工夫して発表する。	5	10
外国の人と思いを伝え合おう(3)	身近な外国の文化に触れ、簡単な日常会話を知り、積極的にコミュニケーションを図る。	5	15
効果的に伝えよう	環境問題について自分なりのテーマを設定し、調べたことを表現の方法・手段を工夫して発表する。	6	10
やさしいまちに	住みやすい町にするには自分たちはどうしたらよいか考え、思いが伝わるように発表する。	6	10
外国の人と思いを伝え合おう(4)	身近な外国の文化に触れ、簡単な日常会話を知り、外国人との身近なことについての意見交換を行う。	6	15
自己紹介	自己紹介や友達の紹介等について、日本語と英語で学び、よりよく理解してもらえる方策を学ぶ。	7	14
意見交換会	日本とアメリカの文化の違いについて知り、それぞれのよさを整理してまとめたり発表したりする。	7	22
発表会	大学から講師を招き、日本語と英語の特徴について知り、日本語または英語で自分の伝えたいことがうまく伝わるように工夫した発表を行う。	7	25

パネルディスカッション	友達や地域の人たち，身近な外国人を交えたパネルディスカッションを通して，日ごろの自分たちの言葉のつかい方等について再考する。	8	18
感想交流会	「私が感動した本」をテーマに感想を日本語または英語で述べ合い，それらをさらうまく相手に伝わるようにするにはどうすればよいかについて学ぶ。	8	18
取材報告会	町中にあるさまざまな表示について知り，それぞれが人とどうつながっているかについて報告し合う。	8	20
シンポジウム	アナウンサーなどの言葉に関する職業に就いている人を招き，社会生活を営んでいく上での留意点等について学ぶ。	9	18
ディベート	日本語と英語によるディベートを通して，相手に納得いく話し方の工夫等について学ぶ。	9	18
スピーチコンテスト	「表現科」の学習を通して学んだことを振り返り，今後自分たちで考えていくべきことなどについて発表し合う。	9	19

(キ) 評価

教師及び児童生徒の評価を毎学期行い，教科指導の在り方についての評価を行う。また，保護者等の外部評価も年1回実施し，今後の指導に生かす。その際，評価項目は「指導計画に関すること」「指導方法に関すること」「実施状況に関すること」「指導体制に関すること」「指導内容に関すること」とする。

さらに，水引小・中学校で「評価方法検討委員会」を設置し，具体的な評価方法の在り方や，評価結果の還元の仕方等について検討を行う。

里小学校・里中学校

ア 「四・三・二制」による教育段階の区切り

前期（小1～小4）では，学級担任によるきめ細かな指導を行い，中期（小5～中1）では，小・中兼務制による専門性を生かした指導を行うとともに，自律心や表現力の涵養を目指す。また，後期（中2

～中3)では、個に応じた指導を行うことで、自立への支援を行う。

イ 小学校における「英語科」の新設

(ア) 「英語科」創設の趣旨

これまでも、里地域においては国際化や情報化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目指した指導を展開してきた。また、様々な情報手段を活用して主体的に自分の考えや思いを伝えたり、どのような考えや思いを持っているかを理解したり、お互いの考えや思いを積極的に伝え合おうとする態度や能力の育成にも努めてきた。

具体的には、里小学校においては、「総合的な学習の時間」や創意の時間において小学校1年生から各学年年間10時間を充てて英会話に慣れ親しみ、簡単な英会話を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めてきた。また、里中学校においては、英語を理解し、英語で表現する能力の育成や英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努め、英語弁論等の表現の場やALTとのコミュニケーションを図る場の充実にも取り組んできた。

しかしながら、離島である里地域においては、日常的に英語や外国人に触れ合う機会がほとんどないため、現在の小学校で充てている英語学習の時数では児童の英語に対する興味・関心を持続させるのは困難である。また、里中学校出身の高校生からは、高校の授業の中で他教科に比べ英語が難しいという声を聞くことが多く、小学校から英語に対する興味・関心を持たせ、中学校で余裕を持って英語学習に取り組ませることにより、本土区域以上の学力向上を図り、高校生活でも教科学習に自信を持って取り組ませたいと考える。

これらの課題解決に向けて、小中学校9年間で英語力とコミュニケーション能力・態度を継続的かつ系統的に高めるために、小学校に「英語科」を創設し、中学校での学習内容との関連を図りながら発信型の英語学習の発展・充実を目指したい。

また、「英語科」の学習においては、児童の発達段階に応じた内容や教材等を工夫して指導するとともに、後期には自分の考えや意思を発信できる実践的コミュニケーション能力の育成を目指した指導を展開する。なお、中期においては、特に小6から中1への円滑な接続を図るために、一部文字を通した指導を取り入れるとともに、必要に応じて、小中兼務制を生かして小学校で中学校英語教諭が指導する。

(イ) 教科目標

小中9年間を見通し、連続性のある一貫した英語教育を展開することで、自分の考えや意思を明確に持ち、発信しようとする積極的な態度の育成と実践的コミュニケーション能力の育成を図る。

(ウ) 指導目標

- ・ 前期後期（小3・4年）…「基本的なあいさつや歌，ゲームなどの音声を中心とした学習を通して，簡単な単語の意味や慣用的な表現を身に付けることができるようにする。」
- ・ 中期前半（小5・6年）…「英会話に慣れ親しみ，簡単な慣用句や表現を身に付け，文字を通した学習も取り入れながら，自分の思いや考えを伝えることができるようにする。」

(エ) 教科書

前期後期においては，カードや実物，VTR等の視聴覚機器等を利用した教材を活用して指導し，中期前半においては，絵本やカード等の文字情報を含んだ自作教材を用いながら指導する。

(オ) 指導体制

学級担任が中心に指導するが，英語に堪能な外部講師（鹿児島純心女子大学の学生）や中学校の英語教師との協同授業を行う。また，必要に応じて小中兼務制を生かした中学校の英語教師による指導を取り入れ指導効果を上げる。

(カ) 指導内容

単 元 名	主 な 内 容	学年	時数
自己紹介	名前や自分の気分について紹介する。 What's your name? My name is ~. How are you? I'm ~.	3	3
100まで言えるよ	1から100までの数字をアクセントに気をつけて言う。10,20,...100	3	3
今，何時	時間を尋ねたり，答えたりする。 What time is it? It's ~.	3	3
私の好きなこと	自分の好きな物，こと，遊ぶもの，持っているものを紹介する。 I like ~. I play ~. I have ~.	3	4
初めての買い物	買い物をする場面を設定し，店員役とお客に分かれてスキットに取り組む。 May I help you? I'll take ~. How much is it?	3	4

自己紹介	心から伝えたいこと・知らせたいことをもとに自己紹介に取り組む。また、挨拶、自己紹介での聞き手のマナーについても学ぶ。	4	3
楽しいこといっぱい	会話の活動を多く取り入れ、月の聞き方・答え方を学ぶ。 How do you say ~ in English? When is ~ ?	4	3
ぼくの1日	実際の生活に即したスキット作りを通して、時刻の聞き方・答え方を学ぶ。 What time do you get up? I get up at 6 o'clock.	4	3
買い物をしよう	日常生活とつながりのあるものを買う場面を設定して、スキット作りに取り組む。 May I help you? I'll take ~.	4	4
レストランで	レストランで食事をする場面を設定し、グループでスキット作りに取り組む。 May I help you? Steak, please. Check, please.	4	4
自己紹介	Classroom English を学び、自己紹介に生かす。	5	3
誕生日はいつですか	誕生日の表し方の自然な口調を学び、身近な場面で誕生日を言ったり尋ねたりする必要感のある場面を設定し、スキット活動に取り組む。 When is your birthday? It's ~.	5	4
何か飲み物はいかがですか	ホームパーティーやレストランに行ったときの場面を設定し、食べ物や飲み物を相手に勧めるときの丁寧な言い方や、その応じ方のスキット活動に取り組む。 Would you like something to drink?	5	4
絵はがきを送ろう	絵はがき作りを通して、文字を視写する活動を取り入れ、アルファベットを書くことの導入的を行う。	5	4
道案内をしよう	道案内をするときに必要な語句や表現を学び、グループで校区地図を作り、地	5	4

	<p>図を見ながら道案内の練習をしたり，スキット作りをしたりする。</p> <p>Where is Nagameno-hama?</p>		
わたしの買いたい服は...	<p>自分のほしいサイズや色の表現を加えたり，実際に服を試着したり，おつりの受け渡し方をしながら，より積極的な買い物スキットに取り組む。I'd like ~.</p>	5	4
遠足に出かけよう	<p>遠足に出発する場面や遠足での食事や遊びの場面を通して，Which do you like A or B?等の表現を使ったスキットに取り組む。</p>	5	4
とっさの一言	<p>「具合の悪い人に出会ったら」「道ばたで泣いている子どもに出会ったら」等，1時間ごとに様々な場面を設定し，その場面にふさわしい英語を探したり，会話を組み立てることを通して，多様な表現を体験する。</p>	5	4
大好き，薩摩川内	<p>薩摩川内市内の伝統行事・名産・場面等から紹介したいことを決めて，グループごとにジェスチャーやアクセント・イントネーションに気を付けてプレゼンテーションする。</p>	5	4
自己紹介	<p>これまでの自己紹介を思い起こしながら，外国人の友達と初めてあったときのスキットを作り，発表する。</p>	6	3
彼は誰でしょう	<p>いろんな人物を紹介する活動を通して，He,She に使い方を学ぶ。</p> <p>Who is he? He is ~. He likes ~.</p>	6	4
ようこそ薩摩川内市へ	<p>外国人の友達の家族に初めて出会った場面を設定し，相手の行きたい場所まで道案内するスキットを作り発表する。</p> <p>Turn right(left).</p>	6	4
AIRMAIL を書こう	<p>外国に帰った友達に手紙を書く活動を設定し，英語を視写する。</p>	6	4
国際電話をかけよう	<p>外国の友達と電話で会話する場面を設定し，グループごとにスキットを作り，</p>	6	4

	発表する。		
イギリス旅行を楽しもう	友達の国に旅行する場面を設定し、自分の行きたい場所、やりたいことを決めて、グループごとにスキットを作り、発表する。	6	4
ビバ、鹿児島	薩摩川内市内の行事や名所、産物などについて調べ、グループごとにストラテジーを用いて調べ、視写し発表する。	6	4
私の夢	将来の夢を楽しく創造して、自分の思いをメッセージカードに書く。 My dream is to ~.	6	4
MY MEMORY	6年間の思い出を振り返り、思い出をドラマにしたり、感謝の気持ちをメッセージカードに書いたりする。	6	4

(キ) 評価

教師及び児童生徒の評価を毎学期行い、教科指導の在り方についての評価を行う。また、保護者等の外部評価も年1回実施し、今後の指導に生かす。その際、評価項目は「指導計画に関すること」「指導方法に関すること」「実施状況に関すること」「指導体制に関すること」「指導内容に関すること」とする。

さらに、里小・中学校で「評価方法検討委員会」を設置し、具体的な評価方法の在り方や、評価結果の還元の仕方等について検討を行う。

ウ 生き方学習を深める「生き方科」の新設

(ア) 「生き方科」創設の趣旨

里地域がある甕島区域は、上級学校がなく中学校卒業と同時に生徒は島を出て行き、親元を離れて生活しなければならないという他地域には見られない現状がある。里地域ではこの島を出て行くことを「島立ち」と呼び、これまでも里小学校と里中学校では親元を離れてからの自立生活のために必要な基本的な生活習慣や生活リズムの確立などに力点を置き、小中連携した指導(「島立ちの教育」)を展開してきた。

しかし、これまでの「島立ちの教育」は、単に島を離れて自立した生活を送るための教育的価値のみが強調され、「島の将来を担う人材を育成する土台づくりのための教育」がおろそかであっ

たという反省がある。これは、これまでのカリキュラムによる指導では、知識や価値が断片的になりがちで、自分の生き方や判断に自信を持って行動するところまでには至っていないということなどがその理由として考えられる。

そこで、小中学校9年間で、道徳、特別活動、「総合的な学習の時間」の3つの領域のカリキュラムを組み直して、児童生徒に様々な体験活動と実生活とのつながりを強く意識させながら、確かな自立心や道徳的実践力、望ましい職業観・勤労観等を身に付けさせる必要がある。このことにより、これまでの学校行事をはじめとする体験をもとにした道徳の授業や、職場体験活動と関連を図った特別活動の学級活動における進路学習の指導よりも、さらに多角的・多面的に一つの事象を分析し、実生活の様々な事象を総合的にとらえることにつながると考える。

また、これらの学習を通して、児童生徒が主体的に自らの生き方を考え、社会生活に積極的に参画しようとする態度の育成を図ることができると思う。

「生き方科」においては、様々な体験活動を伴って、人の生き方や自然・文化などの価値に触れ、その中から将来に向けてよりよく生きるためにはどうすればよいかについての学習するプログラムを設定する。

具体的には、「人の生き方にかかわること」「自然や文化等の人を取り巻くものに関すること」「人と人のつながりや集団に関すること」の3つの視点から、社会人として身に付ける道徳性や、望ましい職業観や勤労観、社会に貢献しようとする態度の育成を図る。

また、「生き方科」のそれぞれの視点の中で、様々な道徳的な価値について深めるとともに、次のような力や態度を育成したい。

「人の生き方にかかわること」

- ・自己発見力...自分の内面を見つめるとともに、自分のよさに気づき、さらにそのよさを伸ばしようとする力
- ・自己解決力...困難に出会ったときにうまく回避したり、よりよい解決に向けて取り組んだりする力
- ・命を大切にしようとする態度...かけがえのない命であることを自覚し、困難にぶちあたっても生き抜こうとする態度

「自然や文化等の人を取り巻くものに関すること」

- ・課題発見力...自然や文化等を多面的に見つめることで、どの

- ような課題があるかを分析し，まとめる力
- ・課題解決力…自然や文化等の課題解決のための手段や方策を見つけ，実現可能な解決策を講じる力
 - ・自然や文化等とかかわろうとする態度…人と自然や文化等とかかわりについて自覚し，自らも積極的にその保護や保全に努めようとする態度
- 「人と人とのつながりや集団に関すること」
- ・社会認識力…集団生活の中にある課題を多面的に見つめ，それぞれの課題の背景や原因を分析し，まとめる力
 - ・社会関係力…集団生活でよりよく他者とかかわる上で必要なコミュニケーション能力をはじめとする力
 - ・社会に積極的に貢献しようとする態度…社会の一員として自分自身にできることを考え，積極的に社会参画しようとする態度

このように，「里を知り，里を愛し，里の未来を考える学習」を具体化するために「生き方科」を創設し，ふるさとである甑島・薩摩川内市の市民として自分自身に自信と誇りを持つ，まちづくり（地域興し）の後継者の育成を図りたいと考える。

(イ) 教科目標

様々な体験活動を通して，社会で生きていくうえで必要とされる道徳的価値の認識や道徳的実践力の向上を系統的に図るとともに，自分の「生き方」について考えさせることにより，将来の自分の人生を切り拓いていくたくましい力を身に付けるようにする。

(ウ) 指導目標

- ・前期後期（3・4年）…「地域の自然や文化に触れ，そのよさを味わせるとともに，主に自然との関係で，自ら進んで行動しようとする心情や態度を身に付けるようにする。」
- ・中期（5～7年）…「地域で活躍している人に触れ，その生き方に感動するとともに，主に他人との関係で，主体的に関わろうとする心情や態度を身に付けるようにする。」
- ・後期（8・9年）…「自らの生き方を見つめ，将来に向けてよりよく生きようとする心情や態度を身に付けるようにする。」

(エ) 教科書

自作教材を主とし，関連する道徳の既存の副読本等も用いる。

(オ) 指導体制

小学校においては学級担任が，中学校においては学級担任を中心に全職員が協同で指導することを基本にする。必要な時間においては，地域人材の活用を図るとともに，中期においては，小中学校の教員が相互乗り入れによる指導を行い，円滑な学校間の接続を図る。

(カ) 指導内容

単 元 名	道徳・特別活動との関連		学年	時数
	道徳（内容項目）	特別活動（内容）		
里の自然見つけた	自然愛，動植物愛護		3	1 3
里のおいしいもの見つけた		A（2）イウ	3	1 2
里の古いもの見つけた	愛校心		3	1 2
里の遊び見つけた	公德心，規則の尊重		3	1 2
里の町並み見つけた	郷土愛		3	1 2
里の生き物見つけた	生命尊重		3	1 2
自然探検隊	自然愛，動植物愛護		4	1 3
おいしいもの探検隊		A（2）イウ	4	1 2
歴史探検隊	愛校心		4	1 2
遊び探検隊	尊敬・感謝		4	1 2
我が町探検隊	敬虔		4	1 2
生き物探検隊	生命尊重		4	1 2
地域のお年寄りに学ぼう	家族愛		5	1 0
ボランティア参加者に学ぼう	勤労，社会奉仕，公共心	A（2）アイ	5	1 0
伝統を守り抜いている人に学ぼう	郷土愛，愛国心		5	1 0
特産物を育てている人に学ぼう	尊敬・感謝	A（2）ア	5	9
地域の著名人に学ぼう	郷土愛，愛国心		5	9
今の私たちにできること	役割と責任の自覚	A（2）アイウ	5	9
お年寄りと私たち	家族愛		6	1 0
ボランティア参加者と私たち	勤労，社会奉仕，	A（2）アイ	6	1 0

	公共心			
伝統を守り抜いている人と私たち	郷土愛，愛国心		6	10
特産物を育てている人と私たち	勤労，社会奉仕，公共心	A(2)ア	6	9
地域の著名人と私たち	希望，勇気，不撓不屈		6	9
今の私たちにできること	創意・進出	A(2)アイウ	6	9
高齢化社会に生きる	家族愛		7	12
ボランティア社会に生きる	勤労の尊さ，奉仕，公共の福祉	A(2)ア	7	12
伝統の継承	日本人としての自覚，文化の継承		7	12
食と農	人間の弱さの克服，人間の気高さ，生きる喜び	A(3)	7	12
地域に生きる	郷土愛		7	12
今の私たちにできること	希望，勇気，強い意志	A(3)	7	12
自分を知ろう		A(2)ア	7	11
共生 ～ 障害者について～	公德心，社会連帯，よりよい社会の実現		7	10
自分のよさを再発見		A(2)ア	8	12
友達のよさを再発見	信頼・友情	A(2)ア	8	12
異性のよさを再発見	男女の敬愛	A(2)ア	8	12
地域の人たちのよさを再発見	向上心，個性の伸長，充実した生き方		8	12
地域の自然のよさを再発見	自然愛，畏敬の念		8	12
地域の伝統・文化を再発見	愛校心		8	12
薩摩川内市民として生きる	国際理解，人類愛		8	12

コンピュータと私		A (3)	8	1 1
自然への提言	自然愛，畏敬の念	A (2) ア	9	1 2
地域への提言	自主・自立，誠実，責任	A (3)	9	1 2
自分への提言	自他の尊重，謙虚，広い心	A (2) ア	9	1 2
友達への提言	集団生活の向上，役割と責任	A (2) ア	9	1 2
情報化社会への提言	公德心，社会連帯，よりよい社会の実現	A (3)	9	1 2
高齢化社会への提言	生命尊重	A (3)	9	1 2
失われつつあるものへ	人間愛，感謝，思いやり	A (2) ア	9	1 2
未来への提言	真理愛，理想の実現	A (3)	9	1 1

(キ) 評価

教師及び児童生徒の評価を毎学期行い，教科指導の在り方についての評価を毎学期行い，教科指導の在り方についての評価を行う。また，保護者等の外部評価も年1回実施し，今後の指導に生かす。その際，評価項目は「指導計画に関すること」「指導方法に関すること」「実施状況に関すること」「指導体制に関すること」「指導内容に関すること」とする。

さらに，里小・中学校で「評価方法検討委員会」を設置し，具体的な評価方法の在り方や，評価結果の還元の仕事等について検討を行う。

黒木小学校・大裏小学校・上手小学校・藺牟田小学校・祁答院中学校
ア 「四・三・二制」による教育段階の区切り

前期（小1～小4）では，学級担任によるきめ細かな指導を行い，中期（小5～中1）では，教科担任制を導入するとともに小・中兼務制による専門性を生かした指導を行う。また，後期（中2～中3）では，教科担任制を行うとともに，習熟度別指導により個性を伸長する指導を行う。

イ 教育の情報化をめざす「情報コミュニケーション科」の新設

(ア) 「情報コミュニケーション科」創設の趣旨

社会の要請，「教育の情報化」の側面から

今日，国際化，情報化，価値観の多様化等，社会は急激に変化しており，とりわけ「IT革命」とも呼ばれる高度情報化通信ネットワークの急激な進展は，私たちの生活環境に大きな変化をもたらしている。

また，近年，インターネット上のトラブルに起因する犯罪が青少年を取り巻く身近な範囲で起きており，学校教育においても，氾濫する情報の中で，子供たちが誤った情報や不要な情報に惑わされることなく，真に必要な情報を集め，判断し，情報を見極める力，つまり「情報活用能力」や，プライバシーの保護や情報活用に対する責任・マナー等の情報モラルの指導が強く求められている。

教育の情報化の目的は 子供たちの情報活用能力の育成，自己表現力とコミュニケーション能力の育成に加え，各教科等の目標を達成する際に効果的に情報機器を活用することを含むものであると考える。

初等中等教育における情報教育は「生きる力」を支える重要な要素の一つであり，義務教育において「情報活用の実践力」，「情報の科学的な理解」，「情報社会へ参画する態度」の3要素から構成される「情報活用能力」をバランスよく総合的に育成することが求められている。

学習指導要領との関連から

平成14年度から完全実施されている現行の学習指導要領の総則には，「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ，積極的に，しかも適切に活用するような学習活動を充実させる」と明記してある。また，情報教育においては，「小・中・高等学校段階を通じて体系的に実施し，生涯を通じて，情報を活用して自己の生き方や社会を豊かにするための基礎・基本を培うこと」がそのねらいとされている。情報機器は，調べ学習や問題解決学習などに大きな力を発揮する情報手段であり，子供の主体的な学びの実現に大きな可能性があると考えられる。

コミュニケーション能力や自己表現能力の育成との関連から

青少年を取り巻く環境のめまぐるしい変化により，現代の若者の病的現象として，ニートやフリーターが社会問題化してきて

おり、全国では平成17年度にフリーターが213万人、ニートが64万人ともいわれている。こうした、家に閉じこもり、仕事や学校に行かないいわゆる「引きこもり」の一因に対人的なコミュニケーション能力の不足が考えられる。

そこで、コンピュータをコミュニケーションの手段として、自分の考えをまとめ、発表・発信することで互いに伝え合う機会を設定することで、自分の考えを豊かに表現し、相手に伝え、理解させ、互いに学び合う力を育成することは意義あることであると考える。

これまでの祁答院地域における研究の歩みから

祁答院地域は、鹿児島県北西部に位置し、人口4,500人程度の田園地帯に位置する「森と湖と温泉の町」として知られてきた。

本地域の児童生徒は、地域で見守られ育てられる教育風土の中、個性豊かで純朴であるが、小規模校で少人数であるがゆえに、相互に切磋琢磨して磨き合い、高め合う場が少なく、中学校入学後あるいは社会へ出てからの新しい環境への適応能力の育成が以前から課題であった。

昭和50年代後半、当時の祁答院町長が秋葉原の電気街の店頭でパソコンに群がる生き生きとした子供たちの目の輝きに感動し、「これから先はパソコンの時代がくる。日ごろから刺激の少ない環境の中にいる祁答院の子供たちへパソコンの操作能力を身に付けさせ、変化の激しいこれからの社会を生き抜く力をつけさせてやりたい。」と決意し、県下に先駆けて昭和59年にパソコンを導入した。以来約20年間にわたり、「パソコンの町祁答院」として知られ、パソコンの教育的利用に関わる実践的研究に取り組んできた。また、平成13年度からは、国の「次世代ITを活用した未来型教育研究開発学校」の指定を受け、学校インターネット計画のもとで、光ファイバーによる旧川内市を中心とした1市4町による広域LANが構築された。さらに、平成16年10月の市町村合併後は、離島（甕島区域）を含めた薩摩川内市内の63の小中学校が光ケーブルで接続され、イントラ・ネットで結ばれた。

こうした教育ネットワーク基盤の整備に伴い、平成17年度からは旧市町村の枠組みを越えた交流・連携をめざし、祁答院地域内の小中学校においてもTV会議システムを有効に活用した交流

学習を校種を越えて実施し、一定の成果を収めつつある。

これまでの研究の結果、児童生徒のコンピュータリテラシーや教職員のパソコン研究に関する知識・技能等も高まりつつある。一方で、次のような課題が明らかになってきた。

- ・ テレビ会議システムを活用した授業は、コミュニケーション能力の育成に有効であるが、相手に自分の思いを上手に伝え、お互いによりよいものをめざして高め合うための人間関係づくり等の総合的な表現力の育成が必要である。
- ・ テレビ会議システムの特性を利用して、他校の児童生徒と一緒に学習する場を設定することで、バーチャル教室が実現できた。今後、小規模校が多いという祁答院地域の実態を踏まえ、多様な考えを出し合い、練り上げる学習のために日常的に活用する必要がある。
- ・ コンピュータを活用した授業の構成により、子供たちの学習への興味・関心が高まり、主体的に学習するようになってきたが、各教科のねらいに即した学習形態や場の工夫が日常的に必要な。
- ・ 校種間の交流を含めて、他校の教員と連携し、お互いの専門性を生かした授業の展開が必要である。
- ・ 祁答院地域の4小学校、1中学校のこれまでの研究成果を共有し、9年間を見通した情報教育を推進する必要がある。

前述の理由から、小中学校9年間で系統的に情報活用能力やコミュニケーション能力を育成するために、新設教科として「情報コミュニケーション科」を創設することにした。新設教科では、各教科や「総合的な学習の時間」、選択教科の中で関連が深い内容を再構成し、総合的な表現力の育成をめざす。

また、小学校段階からコンピュータや情報通信ネットワークを適切に活用させることを通じて、「情報活用の実践力」の育成に焦点を当てた学習を系統的に展開していく。

(イ) 教科目標

様々な問題解決場面でコンピュータや情報通信ネットワークを活用し、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造することにより、自分の考えを豊かに表現し、相手に伝え、理解させ、互いに学び合う喜びを味わい、場面や状況に応じたコミュニケーションができるようにする。

(ウ) 指導目標

- ・前期前半（１・２年）...「情報機器に遊び的な活動を通してふれ、楽しんで活動に参加することができるようにする。」
- ・前期後期（３・４年）...「情報機器をグループで活用することができ、問題解決的な学習や表現活動の手段として活用することができるようにする。」
- ・中期（５・６・７年）...「与える情報や情報手段を複数にし、情報機器にふれる機会を増やし、基本的な操作方法の習熟を図りながら、問題解決的な学習や表現活動の手段として活用することができるようにする。」
- ・後期（８・９年）...「基本的な操作方法の習熟を図りながら、興味・関心に応じた選択的な履修や情報モラルに関する学習を通して、情報社会に参画する態度を身に付けることができるようにする。」

(工) 育成したい情報活用の実践力とコミュニケーション能力

総合的な表現力を 表現(express) 探究(explore) 交流(exchange)の３点からとらえ、前期から中期、後期へと体系的に育成する。

前期（１～４年）

- ・表現(express)...簡単な文章や図、絵を組み合わせて資料を作ることができる。
- ・探究(explore)...身近な人から調べたいことを聞いたり、コンピュータを使って調べたりすることができる。
- ・交流(exchange)...クラスの友達や家の人に伝えたいことを手紙や絵、口頭で伝え、他人と積極的に対話することができる。

中期（５～７年）

- ・表現(express)...相手に伝えたいことが分かるように文章と画像を組み合わせて資料を作ることができる。
- ・探究(explore)...本やインターネットを利用し、調べたいことを知っている人を探したり、課題解決のための情報を得たりすることができる。
- ・交流(exchange)...他のクラスや他校の友達、地域の人たちへ伝えたいことを手紙や絵、口頭で伝え、進んで話し合ったり、目的に沿った対話をしたりすることができる。

後期（８・９年）

- ・表現(express)...自分の考えを相手に分かりやすく伝えるた

- めに，見る人の環境や立場を考えて，文章や画像（動画）を組み合わせ，自分の考えを主張することができる。
- ・探究(explore)...他校の友達や様々な外部機関から課題解決のための情報を収集し，得られた情報が適切かどうかを判断したり，異なる情報の中から最適なものを選択したりして，再構成することができる。
 - ・交流(exchange)...他校の友達や世の中の人々とプレゼンテーションや Web を利用して情報を発信したり，受信したりして，相手の考えを自分のものと比較し，話し合いによって相互の理解を深めることができる。

< 情報コミュニケーション科で取り扱う各教科等と関連する内容 >

- ・ 言語文字の表現（国語，外国語）
- ・ 資料を活用した表現（社会）
- ・ 事象や現象等データを活用した表現（数学，理科）
- ・ 感性をもとにした表現（音楽，図工，美術，家庭，技術・家庭）
- ・ 体を使った表現（体育，保健体育）
- ・ 郷土素材を活用した表現（総合）
- ・ キャリア教育（総合，特別活動）
- ・ 補充・発展学習（選択教科）
- ・ 情報教育に関する学習（総合，技術・家庭）

(オ) 教科書

これまで使用されてきた関連の既存の教科書を用いながら，適宜各学校で作成し，使用してきた指導計画に基づいた自作教材を用いて指導し，小中9年間の系統性を考慮した学習を展開する。

(カ) 指導体制

前期（1～4年）においては，学級担任と加配教員が指導することを基本とし，中期（5～7年）と後期（8・9年）においては，小中兼務制による教員の専門性を生かした相互交換授業を実施したり，TV 会議システムを有効に活用した複数の教員による協同授業を展開したりして指導効果を上げる。

(キ) 指導内容

単 元（ 題 材 ） 名	既存の教科等との関連	学年	時数
みんなに広げれ自己紹介 TV 会議での他校との交流	< 総合 情報 > 自分なりの情報を表現し，伝達する(情報活用の実践力)	3	5
インターネットで情報収集	< 総合 情報 >	3	10

	メディアの操作方法を知ったり，特性に気付いたりする。(情報の科学的な理解)		
友達や家族を紹介しよう	<総合 英語 聞く・話す> 実物・絵・動作を使って，英語を楽しみながら話す。	3	1 5
みんなに広げよう自己紹介 TV 会議での他校との交流	<総合 情報> 課題解決のための情報を収集し，まとめる。(情報活用の実践力)	4	5
メールを使って情報交換	<総合 情報> 情報を交換するときのマナーを守り，情報の整理・整頓をする。(情報社会に参画する態度)	4	1 0
友達や学校を紹介しよう	<総合 英語 聞く・話す・読む> 語句や表現を使って話題を楽しみながら話す。	4	1 5
インタビュー名人になろう	<国語 話す・聞く> 目的や内容を明確にして，丁寧な言葉遣いでインタビューができる。	5	5
ふるさと学習「けどういん子タイム」 蘭牟田池を中心とした環境学習	<総合 環境> 身の回りの環境について，自然の仕組み，様々なよさや問題点について気づき，考える。	5	3 5
好きなもの，好きなこと	<総合 英語 聞く・話す・読む> 語句や表現を使って話題を楽しみながら聞いたり，話したり，読んだりする。	5	1 5
プレゼンテーションで学校を紹介しよう	<総合 情報> 課題や目標にあわせて情報を収集・判断・表現・処理・創造し，伝達する。 (情報活用の実践力)	5	1 5
自分の考えを発信しよう インターネット学習	<国語 書く・読む> テーマに即して自分の考えをまとめるために読んだり，自分の考えを組み立て，文章を書く。	6	5
ふるさと学習「けどういん子タイム」	<総合 環境> 身近な地域の環境問題について調査・	6	3 5

藺牟田池を中心とした環境学習	研究し，解決に向けて実証的な働きかけをする。		
買い物をしよう「これいくら」	<総合 英語 聞く・話す・書く> 語句や表現を使って，社会生活と関わりのあることについて楽しみながら聞いたり，話したり，書いたりする。	6	15
ホームページを作ろう	<総合 情報> 目的にあわせて情報を表現・伝達する中で，相手の立場に立って情報を作ったり，正しい情報を作ったりする。(情報社会へ参画する態度)	6	15
文章表現を中心とした学習	<選択 国語 構成・論理・話題・発想・認識> 課題に応じて研究内容をまとめ，研究発表に主体的に取り組む。	7	10
資料を収集・活用して表現する学習	<選択 社会 資料活用の技能・表現> インターネットやソフトウェアを活用して，都道府県の地域的特色をまとめる。	7	7
感性表現を中心とした学習	<選択 音楽・美術・保体> 自分なりの発想や構成，表現力をもって，コンピュータグラフィックス・ポスター・構成詩等の作品を制作したり，合唱・ダンス等に取り組む	7	35
ふるさと学習「けどういん子タイム」 地域での学習を生かしたコミュニケーション能力の育成を目指した学習	<総合 環境 自然への愛情とモラル> 身近な環境(自然，社会，文化)の有限性や均衡，循環などの観点から地球環境について積極的・継続的な関わりをもつ。	7	6
キャリア教育に関する学習	<総合 進路 職業観の育成> 身近で働く人々の職業観を取材し，仕事に対する責任と役割を学び，自分の特性を理解し，将来設計を立てる，	7	6
補充・発展学習	<選択 基礎学力の定着> 「情報コミュニケーション」を進める際に必要な基礎・基本や応用力を身に	7	25

	付ける。		
情報教育に関する学習	<総合 情報 情報収集・情報加工・ 情報発信・情報モラル> 課題やテーマに関する情報を収集・判 断・処理・創造し，相手の立場を考 えて，発信・伝達する。	7	1 0
文章表現を中心とした学習	<選択 構成・論理・語句や文事柄や 意見・推敲> 作品研究に対し主体的に取り組み，作 品を発表する。	8	1 0
資料を収集・活用した学習	<選択 社会 資料活用能力の技能・ 表現> インターネットやソフトウェアを活用 して，世界の国々の知己的特色をまと める。	8	1 5
感性表現を中心とした学習	<選択 音楽・美術・保体> 自分なりの発想や構想，表現力をもっ て，コンピュータグラフィックス・ポ スター・構成詩等の作品を制作したり， 合唱・ダンス等に取り組む。	8	3 5
ふるさと学習「けどういん子タイ ム」 地域での学習を生かした コミュニケーション能力の育成 を目指した学習	<総合 環境 人間と環境との関係理 解> 身近な環境について総合的にとらえよ りよい環境を築くため，多面的・実証 的に働きかける。	8	2 5
キャリア教育に関する学習	<総合 進路 職業観の育成> 職場体験学習を通して，働くことと学 ぶことの目的と意義を理解し，自己の 能力や適性にあった進路計画を立て る。	8	2 0
補充・発展学習	<選択 基礎学力の定着> 「情報コミュニケーション」を進める 際に必要な基礎・基本や応用力を身に 付ける。	8	2 5
情報教育に関する学習	<総合 情報 情報収集・情報評価・ 情報加工・情報発信・情報モラル>	8	2 5

	目的にあったソフトウェアやメディアを効果的に組み合わせて情報を処理し、交流や発表活動を通して、情報を発信・伝達する。		
文章表現を中心とした学習	<選択 国語 構成・論理・語句や文・推敲・評価> 自分の立場を明らかにして、課題研究の取り組み、主体的に表現する。	9	20
資料を収集・活用して表現する学習	<選択 社会 資料活用能力の技能・表現> インターネットやソフトウェアを活用した株式学習を通して、株式相場が変動する原因を複数の視点から追究する。	9	20
感性表現を中心とした学習	<選択 音楽・美術・保体> 自分なりの発想や構想、表現力をもって、コンピュータグラフィックス・ポスター・構成詩等の作品を制作したり、合唱・ダンス等に取り組む。	9	35
ふるさと学習「けどういん子タイム」 地域での学習を生かしたコミュニケーション能力の育成を目指した学習	<総合 環境 接続可能な社会をつくる態度> 環境、資源・エネルギーについて、自分の考えを持ち、一地球人として責任ある行動をとる。	9	40
キャリア教育に関する学習	<総合 進路 自己実現に向けて努力する態度> 高校体験入学等を通して将来に対する不安を解消し、将来を見通した進路決定が具体的にできるようにする。	9	25
補充・発展学習	<選択 基礎学力の定着> 「情報コミュニケーション」を進める際に必要な基礎・基本や応用力を身に付ける。	9	60
情報教育に関する学習	<総合 情報 情報収集・情報評価・情報加工・情報発信・情報モラル> いろいろなメディアの特性を踏まえ、	9	35

	<p>情報モラル・マナーや著作権等について考えながら，適切な情報を発信・伝達する。</p>		
--	---	--	--

(ク) 評価

教師及び児童生徒の評価を毎学期行い，教科指導の在り方について評価改善を PDCA のサイクルで行う。また，保護者や地域住民の外部評価も毎学期行い，評価を積極的に学校運営や教科指導の改善に生かす。その際，評価項目は「指導内容に関すること」「指導計画に関すること」「指導方法に関すること」「児童生徒の資質・能力（情報活用能力及びコミュニケーション能力）に関すること」「指導体制に関すること」「学習環境の整備（機器の整備状況・ネットワークの運用状況）に関すること」「小中間の学校間連携に関すること」とする。

さらに，祁答院地域の小・中学校で「小中連携推進委員会」を設置し，具体的な評価方法の在り方や，評価結果の還元の仕事等を含め，小中一貫教育の成果と課題について検討していく。

ウ 小中学校における英語教育の充実

これまで各小学校の現行の教育課程内の国際理解教育等で実施されていた「英語に慣れ親しむ活動」を拡充し，前期では，「聞く」「話す」活動を中心に歌やゲーム，ごっこ遊び等を通して，英語に触れ，親しみ，音声を中心とした英語活動を展開する。中期では，国語指導を充実しつつ，英語活動において文字を使った指導を行う。

また，中期終了段階では，英検 5 級及び英検 4 級の全員取得を目指す。後期では，4 技能のバランスを図った英語学習を行い，自分の考えや意思を発信できる実践的コミュニケーション能力・態度を身に付けさせる。さらに，後期終了段階では，英検 3 級または英検準 2 級の取得を目指す。

なお，小学校で担任が英語学習を行っている時間に，ALT や中学校の英語教諭が TV 会議システムを活用して授業に参加し，専門性を生かした協同授業を展開していく。

(4) 初年度の授業時数

- ・ 次ページ参照

(5) 本計画と憲法，教育基本法，学校教育法に示す学校教育の目標との関連に

ついて

本計画で実現する小中一貫教育においては、申請を行う当該校の全児童生徒を対象としたものであり、教育の機会均等を示した憲法第26条を踏まえていると考える。

また、地域の実情に応じた教育活動を展開することで教育の目的である人格の完成等を示した教育基本法第1条を踏まえていると考える。

さらに、「表現科」や「生き方科」、「情報コミュニケーション科」などの新しく創設する教科は、「生きる力」の育成を目指した学習指導要領の趣旨を踏まえていると考える。

なお、新しい教科の創設による現行の教科等の内容の削減については、前述の教科目標や指導内容で示したとおり、これまで各教科等で取り扱ってきた内容を、新しい教科でさらに発展的に融合化して取り扱うものであり、指導する内容そのものまで削減するものではない。

さらに、児童生徒が他地域や市町村から転入してきた場合、毎週月曜日の6校時（職員会議や校内研修に充てている時間）の一部と、平日の放課後の時間（20分程度）を補充指導の時間に充て、個に応じた指導を徹底する。

学校教育法施行規則別表第1（第24条の2関係）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				
第1学年	272		114		102	68	68		90	34	34		782
第2学年	280		155		105	70	70		90	35	35		840
第3学年	235	70	150	70		60	60		90	35	35	105	910
第4学年	235	85	150	90		60	60		90	35	35	105	945
第5学年	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	110	945
第6学年	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	110	945

水引小学校の教育課程

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数										道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数	
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	表現					
前 期	小1	255		114		80	68	68		90	39	34	34		782
	小2	258		155		85	70	70		90	42	35	35		840
	小3	218	70	150	70		60	60		90	40	35	35	82	910
	小4	223	85	150	90		60	60		90	35	35	35	82	945
中 期	小5	168	90	150	95		50	50	60	90	34	35	35	88	945
	小6	163	100	150	95		50	50	55	90	35	35	35	87	945

学校教育法施行規則別表第2（第54条関係）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	選択教科に充 てる授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	105	105	45	45	90	70	105	35	35	0~30	70~100	980
第2学年	105	105	105	105	35	35	90	70	105	35	35	50~85	70~105	980
第3学年	105	85	105	80	35	35	90	35	105	35	35	105~165	70~130	980

水引中学校の教育課程

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数										道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	選択教科に充 てる授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数	
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	表現						
中	中1	125	105	105	105	45	45	90	70	90	61	35	35	30	39	980
後 期	中2	90	105	105	105	35	35	90	70	90	56	35	35	85	44	980
	中3	90	85	105	80	35	35	90	35	90	55	35	35	165	45	980

学校教育法施行規則別表第1（第24条の2関係）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				
第1学年	272		114		102	68	68		90	34	34		782
第2学年	280		155		105	70	70		90	35	35		840
第3学年	235	70	150	70		60	60		90	35	35	105	910
第4学年	235	85	150	90		60	60		90	35	35	105	945
第5学年	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	110	945
第6学年	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	110	945

里小学校の教育課程

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数											道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数	
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	英語	生き方					
前 期	小1	272		114		102	68	68		90			34	34		782
	小2	280		155		105	70	70		90			35	35		840
	小3	235	70	150	70		60	60		90	17	73	25	30	30	910
	小4	235	85	150	90		60	60		90	17	73	25	30	30	945
中 期	小5	180	90	150	95		50	50	60	90	35	58	27	30	30	945
	小6	175	100	150	95		50	50	55	90	35	58	27	30	30	945

学校教育法施行規則別表第2（第54条関係）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	選択教科に充 てる授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	105	105	45	45	90	70	105	35	35	0~30	70~100	980
第2学年	105	105	105	105	35	35	90	70	105	35	35	50~85	70~105	980
第3学年	105	85	105	80	35	35	90	35	105	35	35	105~165	70~130	980

里中学校の教育課程

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数											道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	選択教科に充 てる授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	生き方						
中 後 期	中1	140	105	105	105	45	45	90	70	105	93	25	22	30		980
	中2	105	105	105	105	35	35	90	70	105	95	25	20	85		980
	中3	105	85	105	80	35	35	90	35	105	95	25	20	165		980

学校教育法施行規則別表第1（第24条の2関係）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				
第1学年	272		114		102	68	68		90	34	34		782
第2学年	280		155		105	70	70		90	35	35		840
第3学年	235	70	150	70		60	60		90	35	35	105	910
第4学年	235	85	150	90		60	60		90	35	35	105	945
第5学年	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	110	945
第6学年	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	110	945

黒木小学校・大妻小学校・上手小学校・蘭牟田小学校の教育課程

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数										道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数	
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	情報コミュニケーション					
前 期	小1	272		114		102	68	68		90	34	34		782	
	小2	280		155		105	70	70		90	35	35		840	
	小3	235	70	150	70		60	60		90	30	35	75	910	
	小4	235	85	150	90		60	60		90	30	35	75	945	
中 期	小5	175	90	150	95		50	50	60	90	70	35	35	45	945
	小6	170	100	150	95		50	50	55	90	70	35	35	45	945

学校教育法施行規則別表第2（第54条関係）

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	選択教科に充 てる授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	105	105	45	45	90	70	105	35	35	0~30	70~100	980
第2学年	105	105	105	105	35	35	90	70	105	35	35	50~85	70~105	980
第3学年	105	85	105	80	35	35	90	35	105	35	35	105~165	70~130	980

祁答院中学校の教育課程

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数										道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	選択教科に充 てる授業時数	総合的な学習の 時間の授業時数	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	情報コミュニケーション					
中 後 期	中1	140	105	105	105	45	45	90	70	105	100	35	35		980
	中2	105	105	105	105	35	35	90	70	105	155	35	35		980
	中3	105	85	105	80	35	35	90	35	105	235	35	35		980